

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター一年報

33

平成 29(2017) 年度事業報告

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

2019 年 3 月

序 文

鹿児島大学には、文化財包蔵地となっている敷地が4か所あり、後期旧石器時代から現代までの時期にわたる多くの文化財が確認されています。学内に存在する貴重な遺跡の文化財保護対策を講じつつ、施設整備事業を円滑に進めることを目的として昭和60(1985)年6月1日に鹿児島大学埋蔵文化財調査室が設置され、これまで多くの調査が実施されてきました。そしてその成果は『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』vol.1～32、『鹿児島大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書』第1～13集として逐次報告されてきました。

今年度は、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの平成29年度の事業報告として『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』vol.33を刊行することになりました。平成29年度は立会調査8件や遺物整理作業、熊本震災復興のための支援事業など実施しており、本書はその事業の概要について掲載されています。

キャンパス内では継続的に校舎建築や周辺整備事業などが行われ、これら事業に伴う文化財保護法に基づいた埋蔵文化財調査が行われています。調査とともに、その調査成果であり文化財の記録保存物でもある調査報告書の早期に刊行に向けて、埋蔵文化財調査センターは全力を尽くす所存です。

キャンパス内から出土する貴重な埋蔵文化財の調査及び研究を行うための体制の実現について、重ねてご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成31年3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長
中村 直子

例 言

- 1 本書は、平成 29 (2017) 年度に鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが実施した事業の概要報告である。
- 2 本書に掲載している地中レーダー探査は鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが担当した。立会調査は、鹿児島市教育委員会が担当し、鹿児島大学埋蔵文化財調査センターが調査補助および記録を行った。
- 3 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査センターが行った。担当者は以下の通りである。
遺物実測：相良暁子・中村直子
トレース：相良・中村
遺物写真撮影 相良・中村
作表・執筆：中村
編集：中村・新里貴之・寒川朋枝
- 4 本書で報告している遺物の保管は、埋蔵文化財調査センターの管理のもと、学内の出土部局収蔵施設にて保管している。また、図版・写真などの資料は埋蔵文化財調査センターに保管している。

凡 例

- 1 昭和 60 年 6 月 1 日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査に便できるように、鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地 (旧宇宿団地) とに設定した。その設置基準は以下のとおりである。
(1) 郡元団地では、国土座標第 2 座標系 (X=- 158,200,Y=- 42,400) を基点として一辺 50 m の方形地区割りを行った (Fig. 2 参照)。
(2) 桜ヶ丘団地では、国土座標第 2 座標系 (X=- 161,600,Y=- 44,400) を基点として一辺 50 m の方形地区割りを行った (Fig. 3 参照)。
- 2 本報告書におけるレベル高は、すべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
- 3 土層・遺物の色調は『新版標準土色帖』(農林水産技術会議事務局監修)を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「~に類似」と表記した。
- 4 遺物に関しては観察表を作成した。その標記、表現については以下の通りである。調整:調整名称の前の () は、調整方向を表す。(); 横位方向,(|); 縦位,(^); 左上がりの斜位,(/); 右上がりの斜位,とした。
- 5 本文中の遺物番号は通し番号を付し、挿図・図版・遺物観察表と一致している。

抄 録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぼう さんじゅうさん							
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報 33							
編著者	寒川朋枝・中村直子・新里貴之							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒 890-8580 鹿児島市郡元一丁目 21 番 24 号 TEL 099-285-7270 Fax 099-285-7271							
発行年月日	2019 年 3 月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査 起因
		市町村	遺跡番号					
鹿児島大学構内 遺跡郡元団地	鹿児島市 郡元 一丁目 20-15	46201	1-23-0	31° 34′ 18″	130° 23′ 43″	2017 年 6 月 12 日 ~ 2018 年 3 月 30 日		学内施設整備 事業
鹿児島大学構内 遺跡桜ヶ丘団地	鹿児島市 桜ヶ 丘 8 丁目 35- 1	46201	1-114-0	31° 32′ 50″	130° 31′ 38″	2017 年 12 月 4 日 ~ 2018 年 3 月 19 日	1094m ²	学内施設整備 事業
弥次ヶ湯遺跡	指宿市 十町 1291	46210		31° 15′ 2″	130° 38′ 17″	2017 年 11 月 14 日		学内施設整備 事業
所収遺跡	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
鹿児島大学構内 遺跡郡元団地	古墳時代		成川式土器				立会 調査 概要 報告	
脇田亀ヶ原遺跡							立会 調査	
弥次ヶ湯遺跡							立会 調査	

目次

I	平成 29(2017) 年度の事業概要	1
II	立会調査	6
III	郡元団地 C・D－3 区（保育所建設）遺構確認調査	13
III.1	調査の経過	13
III.2	2017-ア 地中レーダー探査	13
III.3	ボーリング調査	15
III.4	まとめ	15
IV	遺物整理	16
V	刊行物	16
VI	遺物保管	16
VII	その他	16
	鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則	18
	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター規則	19

I 平成 29(2017) 年度の事業概要 (Tab. 1)

平成 29 (2017) 年度は、学内の施設整備事業に伴い立会調査 8 件、遺構確認のための地中レーダー探査を 1 件、土層確認のためのボーリング調査 1 件を実施した。遺物整理作業は 4 件、刊行物として『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報 32』を刊行した。遺物保管作業は 2 件、また学外の埋蔵文化財調査期間への支援活動として 3 件、普及啓発活動として 公開講座が 1 件、および学外からの依頼で 1 件の資料を貸出した。

平成 29 年度事業の特徴としては、施設整備事業に伴う事前調査として地中レーダー探査やボーリング調査から、発掘調査なしに保護対策を講じた事である。また、学外埋蔵文化財機関への支援活動として、熊本震災関係支援として熊本大学埋蔵文化財調査センターへ教員を派遣した。なお、今年度は地中レーダー探査依頼を受け、2 件実施

Tab. 1 平成 29 年度事業一覧

事業	コード	調査区	工事名称	担当者	期間
立会	2017-B	郡元団地 I-10 区	建築学科棟 1 号館改修機械設備工事	新保 (鹿児島市教委)・寒川	平成 29 年 8 月 29 日
	2017-C	桜ヶ丘団地 I・J-8・9 区	共通教育棟西側駐車場補修工事	新保 (鹿児島市教委)・寒川	平成 29 年 8 月 2 日
	2017-D	指宿植物試験場	敷地境界フェンス取替その他工事	松崎 (指宿市教委)・寒川	平成 29 年 11 月 14 日
	2017-F	桜ヶ丘団地 J～L-8～10 区	屋外防犯灯設置工事	新保 (鹿児島市教委)・寒川	平成 29 年 12 月 4 日
	2017-G	郡元団地 K・L-10・11 区	海洋土木科棟改修機械設備工事	新保 (鹿児島市教委)・寒川	平成 30 年 3 月 30 日
	2017-H	桜ヶ丘団地 E～J-10～12 区	井水浄化供給業務	新保 (鹿児島市教委)・寒川	平成 30 年 1 月 9 日
	2017-I	郡元団地 H～J-3～5, I・J-12・13 区	稲盛記念館 (仮称) 新営工事に伴う駐輪場移設	長野 (鹿児島市教委)・新里・寒川	平成 30 年 2 月 20・21 日
	2017-J	桜ヶ丘団地 H-6・7, M-7 区	サイン設置工事	新保 (鹿児島市教委)・寒川	平成 30 年 3 月 19 日
探査	2017-ア	郡元団地 C・D-3 区	保育所建設予定地	中村・新里・寒川	平成 29 年 6 月 12 日
土層確認		郡元団地 C・D-3 区	保育施設建設予定地ボーリング調査	中村・新里・施設部	平成 29 年 6 月 22 日
事業	コード	調査区	工事名	作業内容	担当者
遺物整理	1976-1	郡元団地	釘田遺跡第 8 地点	縄文・弥生・古代・中世・近世・近代遺物, 石器の実測	新里・寒川・相良・篠原・吉村
	2002-1	郡元団地	総合研究棟 II (理工系)	遺物実測・トレース	中村・寒川・相良・篠原・吉村
	2007-2	郡元団地	共通教育棟 2 号館	遺物洗浄・注記	桐木平・芝田・下田・東
	2016-1	桜ヶ丘団地	医療ガスボンベ庫	遺物実測・トレース	中村・寒川・相良・篠原・吉村
				2016 年度立会	遺物実測・トレース
事業	種類	題目	担当者	発行日	
刊行物	年報	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報 32		平成 30 年 3 月	
事業	内容	担当者	期間		
遺物保管	遺物保管場所確認作業 (15 か所)	新里・中村・寒川	平成 29 年 11 月 27・28 日		
	木製品水替え作業 (3 か所)	中村・新里・寒川	平成 29 年 9 月 11～15 日		
調査支援	熊本大学敷地内遺跡調査震災関連支援	新里	平成 29 年 11 月 6 日～12 月 15 日		
	探査	宮崎県都城市菓子野地下式横穴墓群レーダー探査	中村	平成 30 年 1 月 18 日	
	探査	鹿児島城 (鶴丸城) レーダー探査	中村	平成 30 年 1 月 26 日	
	公開講座	「石から探る旧石器時代の日常生活」	講師：大場正善氏、寒川	平成 29 年 9 月 24 日	
普及啓発	資料貸出	「大学生による小学校出前授業」のため鹿大構内遺跡遺物貸出	中村	平成 29 年 11 月 22～30 日	



国土地理院の基盤情報地図 2473024 を使用

Fig. 1 遺跡の位置 S= 1/ 50,000

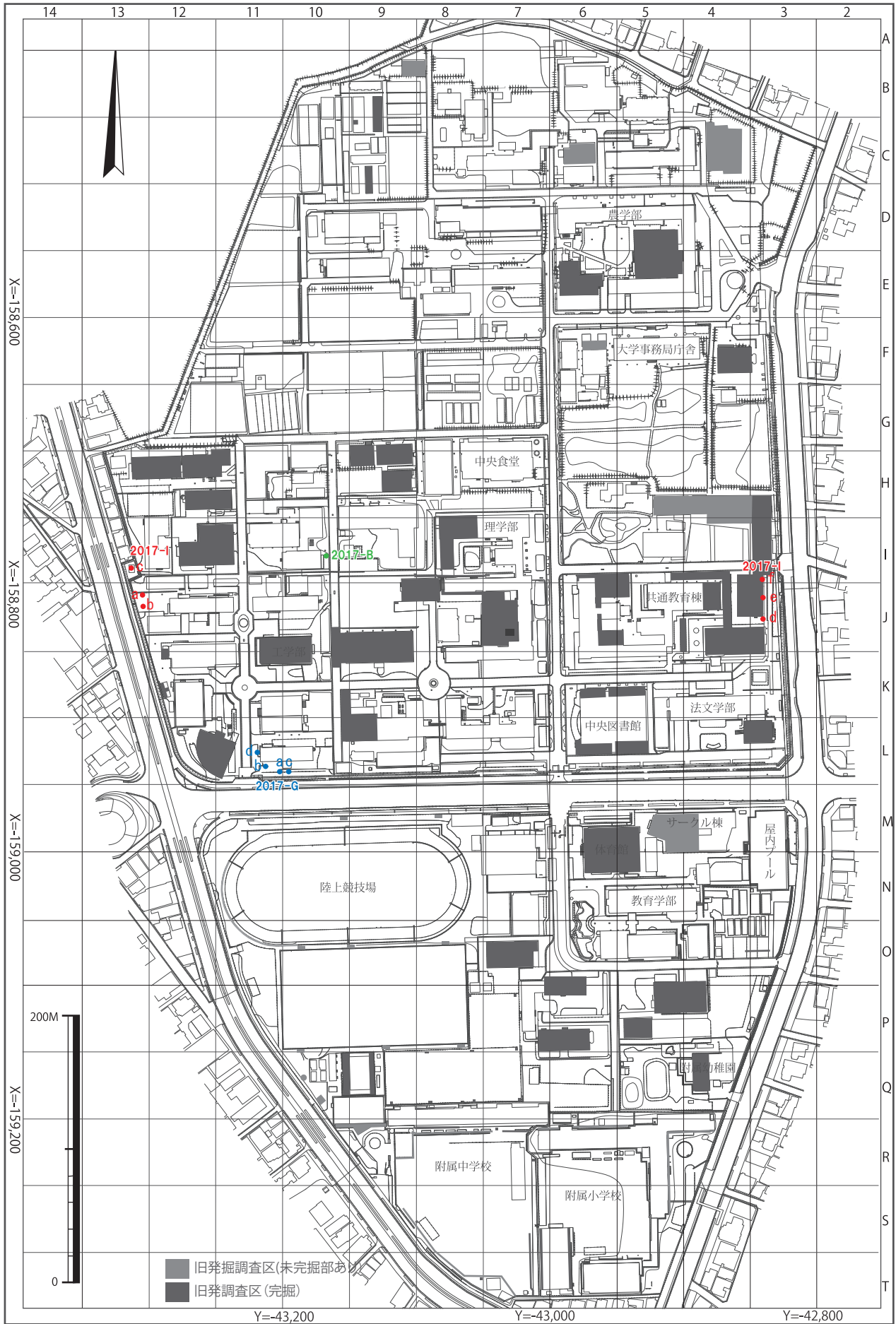


Fig. 2 郡元調査区の位置 S = 1/4000



Fig. 3 桜ヶ丘団地調査区の位置 S = 1/4000



国土地理院 地形図 NH-52-8-5 使用

Fig. 4 農学部附属植物試験場（弥次ヶ湯遺跡）の位置 $S = 1/100,000$

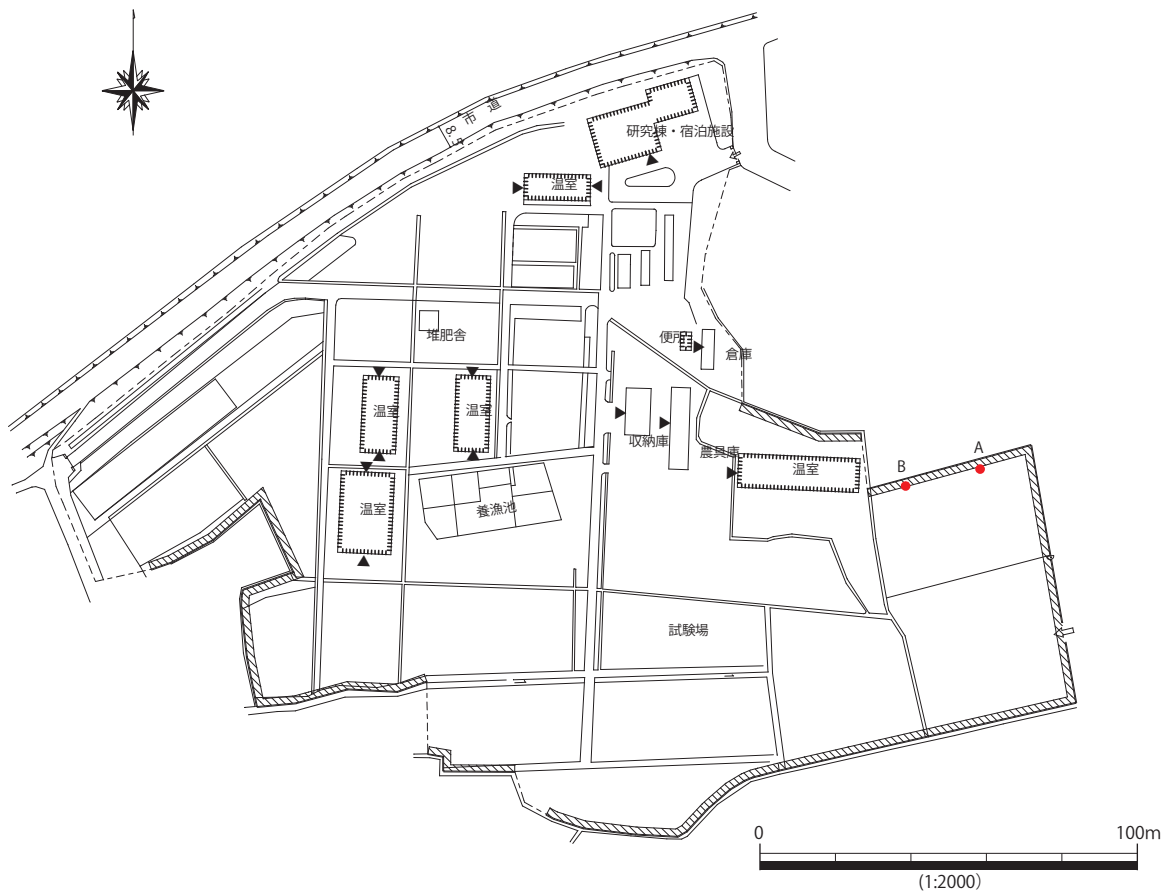


Fig. 5 農学部附属植物試験場の調査地点 $S = 1/2000$

している。

II 立会調査

平成 29(2017)年度は、郡元団地内で 3 件、桜ヶ丘団地内で 4 件、指宿植物試験場 1 件の立会調査を実施した。国立大学法人化後、調査は所管の市町村教育委員会が担当することになっており、埋蔵文化財調査センターはオブザーバーとして調査に参加する。漏水などの緊急時には、教育委員会との協議の後、埋蔵文化財調査センター単独で調査を行っている。今年度、初めて弥次ヶ湯遺跡が所在する指宿植物試験場での施設整備事業に伴う立会調査を実施する事になった。以下に各立会調査についてその概要を記す。

2017-B 郡元団地 I-10 区 工学部建築学科棟 1 号館改修機械設備工事 (FIG. 2 2017-B 地点)

調査期間：2017 年 8 月 29 日

調査担当：新保朋久（鹿児島市教育委員会）・寒川（鹿児島大学埋蔵文化財調査センター）

郡元団地工学部建築学科棟 1 号館改修工事に伴い、屋外配管の埋設工事のうち、建物北西部について立会調査を実施した。地表下 50cm まで掘削を行い、表土の範囲で掘削が収まる事を確認した。遺物の出土もなかった。



PL. 1 2017-B 左：掘削開始状況 右：完掘状況

2017-C 桜ヶ丘団地 I・J・8・9 区 共通教育棟西側駐車場補修工事 (FIG. 3 2017-C 地点)

調査期間：2017 年 8 月 2 日

調査担当：新保・寒川

桜ヶ丘団地北西部に位置する共通教育棟西側の駐車場においてその補修のため、駐車場南側に列状に植樹されているクロガネモチ 13 本の撤去と北側に外灯 1 本の設置工事が計画された。工事に伴い、樹木撤去場所のうち 3 か所 (Fig. 3 2017-a～c 地点) と外灯設置場所 (Fig. 3 2017-c 地点) の立会調査を実施した。樹木撤去場所については、地表下 70～80cm まで掘削を実施したが、表土の範囲で遺物の出土もなかった。外灯設置部分は、地表下 1.1m までの掘削だったが、アカホヤ土や黒色土、チョコ層土ブロックがあり、攪乱土であると推定された。南側下層には一部プライマリーな薩摩火山灰が確認できたが、埋蔵文化財には影響しないと考えられた。遺物の出土はなかった。



PL. 2 2017-C c 地点樹木撤去状況



PL. 3 2017-C 外灯設置場所 左：掘削状況 右：完掘状況

2017-D 指宿植物試験場敷地境界フェンス取替その他工事 (FIG. 5 2017-D 地点)

調査期間：11月14日

担当者：松崎大嗣（指宿市教育委員会）・寒川

指宿市に所在する農学部附属指宿植物試験場の一部は、周知の遺跡である弥次ヶ湯遺跡に含まれる。敷地内をめぐるフェンスの取替工事が予定されたため、7月19日に指宿市教育委員会とのその対応について指宿市教育委員会および本学施設部と現地での協議を実施した。弥次ヶ湯遺跡は古代遺物の散布があったとされているが、これまで本格的な埋蔵文化財調査は実施されていなかった。今回は土層堆積状況のデータを収集するため、工事に先立ち11月14日に試験場東側の2か所で掘削深度1mまで掘削を実施した (Fig. 5)。

その結果、どちらの地点でも6つの層を確認した。3層では874年の開聞岳噴出物とされる紫コラ層土と5層には7世紀第4四半期の開聞岳噴出物とされる青コラ層土が混ざっているが、1～3層までは表土・攪乱層であると推定された。フェンス設置のための掘削工事はほぼ表土の範囲に収まる事から、埋蔵文化財への影響はないと判断され、立会調査を終了した。



Fig. 6 2017-D 立会調査 柱状図



PL. 4 2017-D a地点 左：掘削状況 右：a地点完掘状況

2017-F 桜ヶ丘団地J～L-8～10区 屋外防犯灯設置工事 (FIG. 3 2017-F 地点)

調査期間：平成 29 年 12 月 4 日

担当者：新保 (鹿児島市教委)・寒川

桜ヶ丘団地北西部において外灯設置工事が計画され、弓道場横部分の地点のみ立会調査を実施した。外灯基礎埋設部分を地表下 80cm まで掘削を行った。掘削部分底面付近で薩摩火山灰層を確認したが、それ以上は表土層であった。薩摩火山灰層も露出部分は少々攪乱されている状況が確認でき、客土である可能性もある。遺物の出土はなかった。



PL. 5 2017-F 左：掘削状況 右：完掘状況

2017-G 郡元団地K・L-10・11区 工学部海洋土木科棟改修機械設備工事 (FIG. 2 2017-G 地点)

調査期間：平成 30 年 3 月 30 日

担当者：新保 (鹿児島市教委)・寒川

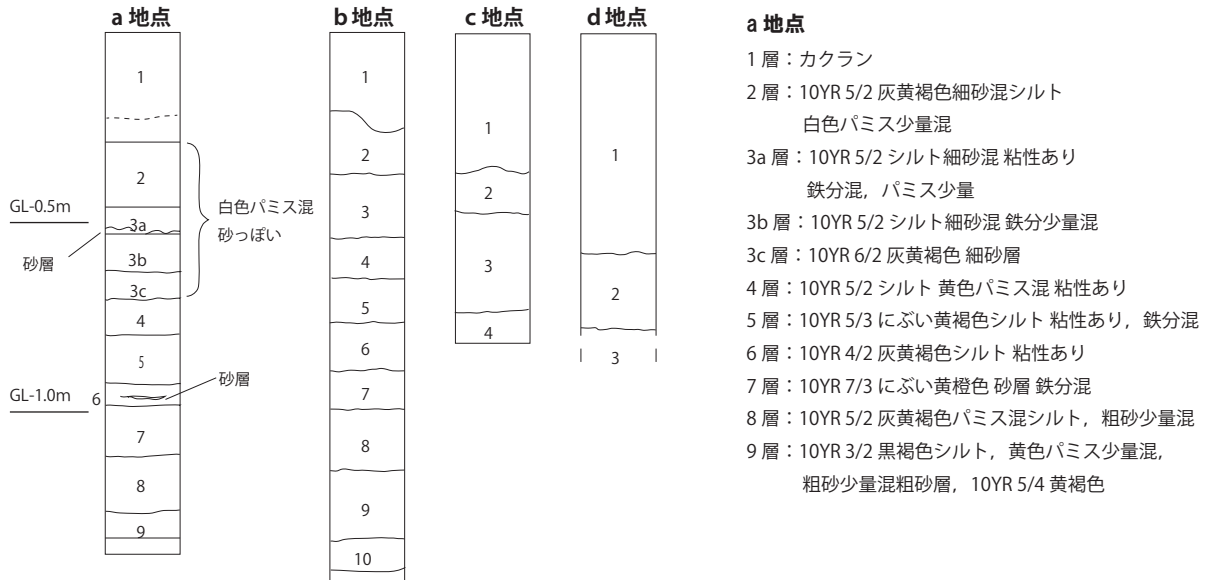
郡元団地工学部において海洋土木科棟の改修工事に伴い、配管や雨水枡等埋設のための新規掘削工事が計画された。平成 29 年度には建物より南側部分において工事が施行され、立会調査を実施している。立会調査は 2017-G a～d 地点の 4 つの地点で実施し、土層観察を行った (Fig. 7)。a・b 地点は地表下約 1.4m まで掘削した。a 地点が b 地点よりやや砂っぽい土質だが、両地点の下部は類似している。地表下 1.3m 付近には黒褐色シルト層 (a 地点 9 層・b 地点 10 層) があり、弥生時代中期の水田層より下層に存在する黒色シルト層に類似する。それ以上は灰色を基調とした粘性のあるシルトが砂層を挟みながら堆積しており、連続した水田層であると考えられる。工学部周辺では、弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世と複合的な水田層が確認されており (鹿児島大学埋蔵文化



PL. 6 2017-G a 地点 左：掘削状況 右：完掘状況

財調査センター報告書 第9集), 本地点もそれらの土層が広がっていると考えられる。

遺物は, a 地点8層から弥生時代か古墳時代のものと思われる土器片が1点出土している。



b 地点

- 1層: カクラン
- 2層: 10YR 5/4 にぶい黄橙シルト パミス少量混
- 3層: 10YR 5/2 灰黄褐色シルト 粘性あり
- 4層: 10YR 5/6 黄褐色シルト
- 5層: 10YR 4/3 にぶい黄褐色シルト
 白色パミス少量混, 細砂少量混
- 6層: 10YR 5/3 にぶい黄褐色シルト マンガン混
- 7層: 10YR 4/2 灰黄褐色シルト 粘性あり マンガン少量混
- 8層: 10YR 6/3 黄褐色砂層, 鉄分多い
- 9層: 10YR 4/1 褐灰色シルト, パミス混
- 10層: 10YR3/2 黒褐色シルト

a 地点ほど上層部は砂っぽくなく, 湿り気(粘性)がある。

Fig. 7 2017-G 立会調査 柱状図



PL. 7 2017-G b 地点 左: 掘削状況 右: 完掘状況



PL. 8 2017-H 左：掘削状況 右：完掘状況

2017-H 桜ヶ丘 E～J-10～12区 井水浄化供給業務 (FIG. 3 2017-H 地点)

調査期間：平成 30 年 1 月 9 日

担当者：新保 (鹿児島市教委)・寒川

桜ヶ丘団地北側において、配管埋設のため掘削工事を実施する事になった。工事に先立ち、配管ルート上の 6 か所 (a～f 地点) について土層観察のための立会調査を実施した。a～e 地点は盛土上の設置となり、埋蔵文化財への影響はないと推定された。f 地点は 50cm の掘削を実施したが、表土の範囲で埋蔵文化財へは影響しないと判断された。

2017-I 郡元団地団地 H～J-3～5, I・J-12・13区 稀盛記念館 (仮称) 新営工事に伴う駐輪場移設 (FIG. 2 2017-I 地点)

調査期間：平成 30 年 2 月 20・21 日

担当者：長野陽介 (鹿児島市教育委員会)・新里貴之・寒川

郡元団地において、東側に位置する共通教育棟 1 号館東側の樹木 3 本を工学部機械工学科第 3 実験棟南西側に移植するため、2 月 20 日に移植場所 3 か所 (d～f 地点)、2 月 21 日に抜根場所 3 か所 (a～c 地点) の立会調査を実施した。ただし a～c・f 地点については立会調査前にすでに掘削が終了しており、土層観察のみの調査となった。a・b 地点については土層が類似しており、下部に水田層と考えられる複数のプライマリーな層が確認された。c 地点は盛土層の範囲で掘削が終了し、埋蔵文化財への影響はなかった。

郡元団地東側の共通教育棟東側の d～f 地点は樹木抜根のための掘削で、幹まわりを幅 2m 前後、掘削深度 1.1m の掘削を実施している。3 地点とも類似した土層で、表土下には複数のプライマリーな層が確認されている。中でも、古墳時代～古代初頭の遺物包含層である 6 層で多くの土器が出土した。

出土遺物 (Fig. 9・PL. 9)

d 地点で 3 点、e 地点で 11 点、f 地点で 6 点出土した。いずれも小片だが、古墳時代の土器片であると思われる。図示できる 3 点について Fig. 9 に示した。

1 は甕の突帯部で、刻み目が施されている。2 は甕か鉢の脚部である。端部は丸くすぼまり、外側へ開く形状を呈する。3 は高杯の脚部で、摩滅して表面が剥落しているが、外面には赤色顔料が塗布されているのが確認できる。3 点とも成川式土器に当たると考えられる。1・3 は f 地点から、2 は e 地点からそれぞれ出土しているが、出土土層はいずれも 5 層である。この層は、一帯に広がる古墳時代遺物包含層と同一層である。

2017-J 桜ヶ丘団地 H-6・7, M-7区 サイン設置工事

平成 30 年 3 月 19 日

担当者：新保 (鹿児島市教委)・寒川

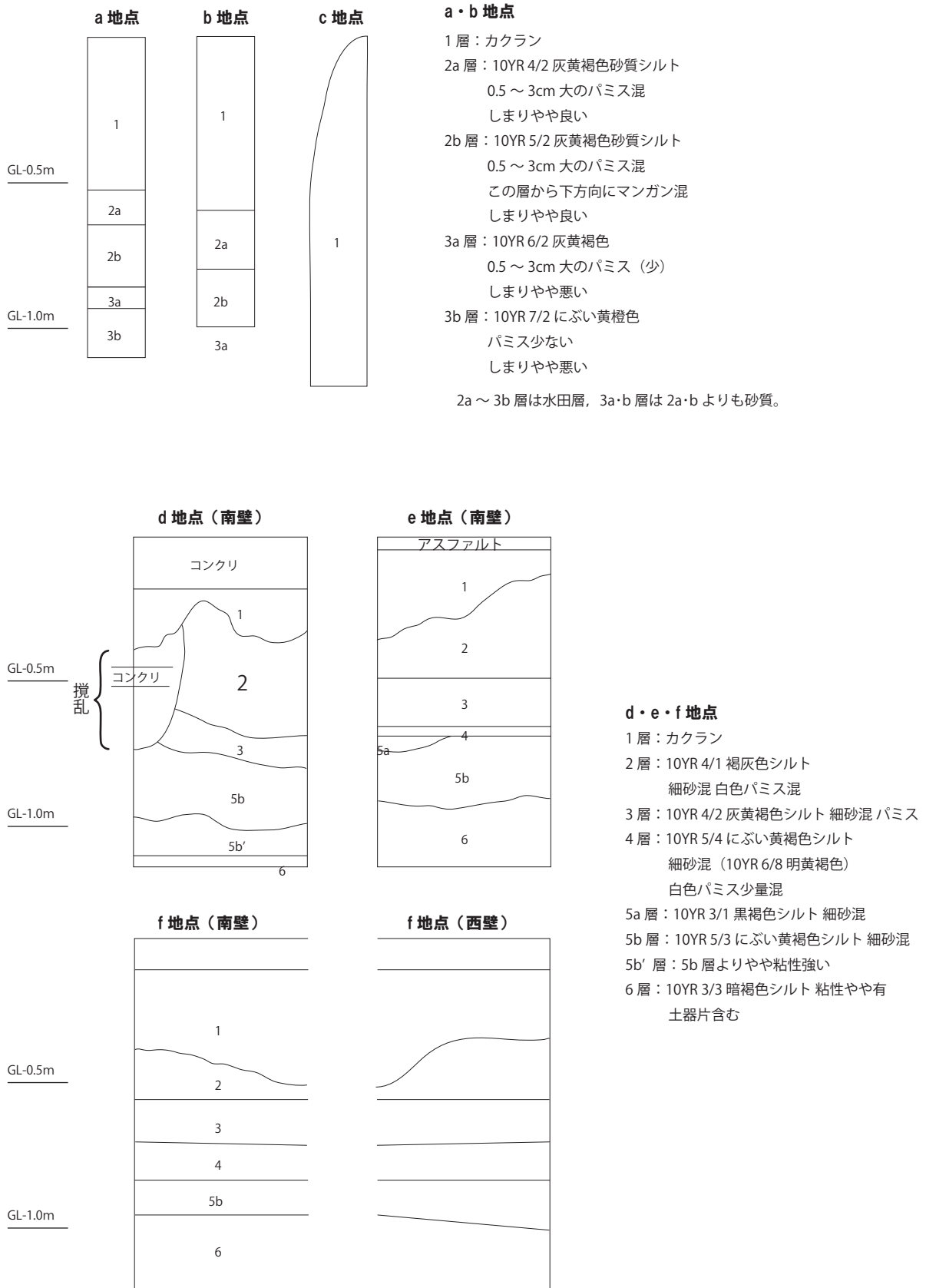


Fig. 8 2017-I 立会調査 柱状図

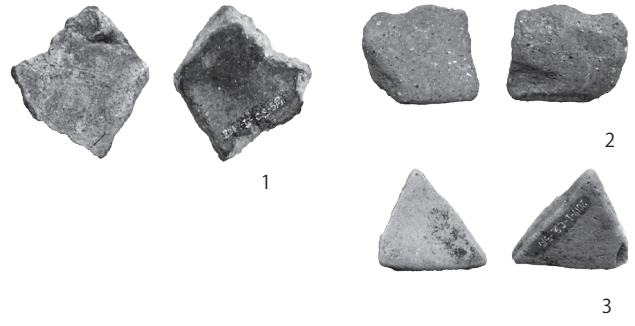
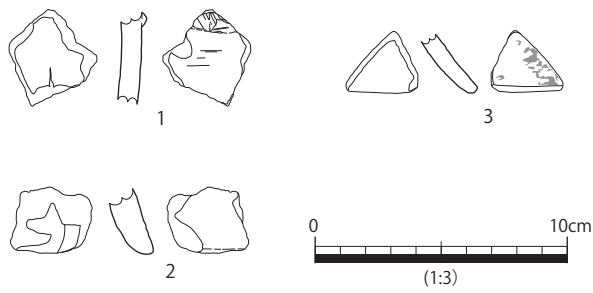


Fig. 9 2017-I 出土遺物 S=1/3

PL. 9 2017-I 出土遺物

Tab. 2 2017-I 出土遺物観察表

番号	層	地点	種別	器種	部位	残存	色調	調整	胎土		備考
									混和材の大きさ	混和材の種類	
1	5	f	成川式	甕	突帯部	1/6以下	外：10YR 6/3 にぶい黄橙色. 内：10YR 4/6 褐色と 10YR 2/3 黒褐色	外：ナデ (—). 内：ナデ?	細砂粒	赤・黒色粒, 角閃石, 石英	
2	5	e	成川式	甕か鉢	脚台	1/6以下	外：2.5YR 5/8 明赤褐色. 内：5YR 6/8 橙色.	外：ナデ (—) 磨滅顕著. 内：工具によるナデ?	礫, 赤・白色粒, 角閃石		
3	5	f	成川式	高杯	脚部	1/6以下	外：10YR 7/4 にぶい黄橙色. 内：10YR 6/2 灰黄褐色. 器内：10YR 5/1 褐灰色, Hue10YR 7/2 にぶい黄褐色	外：赤色顔料塗布. 内：摩滅のため不明	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	赤・白色粒, 軽石, 石英	外：赤色顔料を塗布



PL. 10 2017-I 左上：抜根作業 右上：d地点東壁 左下：e地点層位 右下：a地点完掘後



PL. 11 2017-I 左：a地点西壁 右：c地点西壁



PL. 12 2017-J 左：掘削状況 右：完掘状況

桜ヶ丘団地では、標識設置のため3カ所の工事が予定されたが、a・b地点は掘削予定深度の70cmまで攪乱されている可能性があったため、キャンパス西側に位置するc地点のみ立会調査を実施する事となった。予定地を掘削したところ、地表下30cm付近で埋設管が確認され、掘削地を東に移動し新たに掘削を行った。しかし、そこでもまた埋設管が確認されたため、当初予定地の西側に設置場所を移し、掘削を実施した。地表下70cmまで掘削を行ったが、土層は攪乱されており遺物の出土もなかった。

Ⅲ 郡元団地C・D－3区（保育所建設）遺構確認調査

Ⅲ.1 調査の経過

郡元団地内にて保育所の建設が予定され、正門北側に位置するテニスコート付近が建設予定地となった。周辺では連合農学研究科棟や総合動物実験施設の建設に伴う発掘調査を実施しており、江戸時代中期の屋敷跡や河川跡および中世の遺物包含層が存在していると推定された。当センターと施設部は協議の上、予定地の地中レーダー探査とボーリング調査を実施し、土中の遺構や土層の確認を行うことにした。

Ⅲ.2 2017-ア 地中レーダー探査

調査日 平成29年6月12日

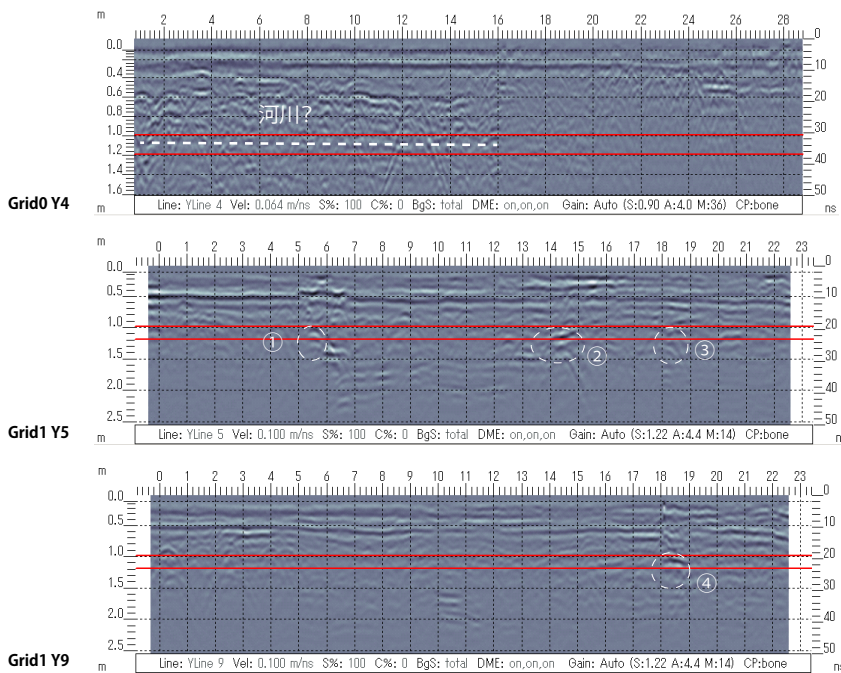
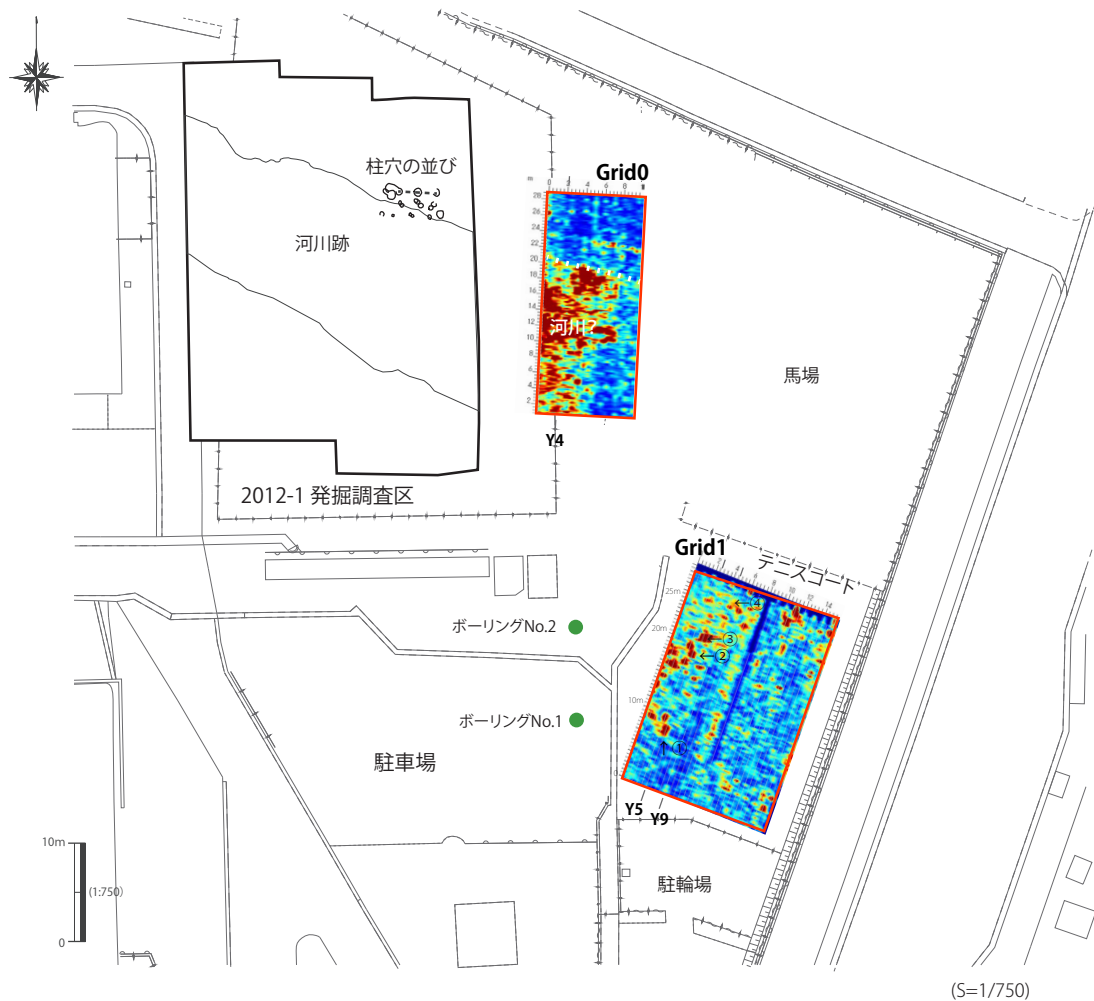


Fig. 10 2017- ア 保育所建設予定地周辺のレーダー探査反応図 平面 S=1/750



PL. 13 2017-ア 左：テニスコート (Grid1) 探査の様子 右：馬場 (Grid0)

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 中村・新里・寒川・相良・篠原・吉村

使用機器 Sensors & Software 社製 NOGGIN 250MHz

解析ソフト EKKO MAPPER ver.4

建設予定地にあたるテニスコートと隣接する馬場について探査を実施した。テニスコートに設置した Grid 1 は東西 16 m, 南北 29 m, 馬場に設置した Grid 0 は東西 10m, 南北 29m の範囲で, 0.5 m 間隔の測線配置による Y 方向のみの測定を実施した。Grid0 は, タイムスライス 20ns 以下で南から 16m 付近で強い反応を示した。Fig. 10 の Grid0 平面反応図は 30-36ns 深度のものだが, 南半分には反応が広がっている。総合動物実験施設建設に伴う発掘調査 (2012-1) で検出された河川跡の東延長上にあたることから, 埋没河川であると推定できる。

テニスコートの Grid1 では, 18-22ns 深度で南西-北東方向に並ぶ幅 1 m ほどの強い反応が確認できる (②~④)。またその反応が, その南はしから直交するライン上に同様な反応が認められる (①)。2012-1 発掘調査では 18 世紀中頃の建物と推定される, 礫群が底面に置かれた柱穴跡が検出されており, 同様な遺構が存在している可能性が考えられる。また, 周辺の発掘調査で検出される高等農林学校時代の建物は, その向きが東西南北方向にあっているが, 江戸時代の建物の方向はやや南西-北東方向にずれる。Grid1 の反応の並びも同様で, 江戸時代の建物の並びに近いことから, この反応が江戸時代に関連する遺構である可能性が高いと考えられる。

Ⅲ. 3 ボーリング調査

調査期間 平成 29 年 6 月 22 日

調査担当 日本地研株式会社

テニスコート西側駐車場において 2 か所のボーリング調査を実施した (Fig. 10 No. 1・2)。地表面から 2 m までの土層観察が目的だったため, 掘削深度は 2 m までとした。ボーリングサンプルの観察の結果, 標高 5 m (地表下 1 m) までは表土層が堆積しており, この深度内の掘削工事だと埋蔵文化財に影響しないと予想された。

Ⅲ. 4 まとめ

地中レーダー探査では, ns30 以下に江戸時代の遺構と考えられる反応が認められ, 計算上は地表下 1 m となると予想された。また, 隣接する駐車場におけるボー



PL. 14 保育所建設予定地ボーリング調査 (No. 1)

リング調査では、地表下1mまで表土層であることが確認できた。この結果を元に施設部と協議し、保育所は軽量鉄骨構造での基礎部分を布基礎とし、工事における掘削深度も地表下70cmまでに留める構造することによって江戸時代の建物跡と推定される遺構を保護することになった。

IV 遺物整理

遺物整理を実施したのは数年来継続して作業を実施している釘田遺跡第8地点の古墳時代以外の遺物について重点的に実施した。弥生時代～古墳時代の木製品については、平成27年度に報告書を刊行している。また、理工系総合研究棟建設地に伴う発掘調査(2002-1)出土遺物についてもトレースまでの作業を実施した。両者については平成30年度に報告書を刊行する予定である。桜ヶ丘団地医療ガスボンベ庫設置工事に伴う発掘調査(2016-1)と2016年度の立会調査出土遺物についてもトレースまでの作業を終了した。

平成19年度に発掘調査を実施した郡元団地共通教育棟2号館改修工事に伴う発掘調査(2007-2)出土遺物については、洗浄とトレースについて作業を行った。

本年度の整理作業によって、2002-1・2016-1・2016年立会調査、3件分の遺物整理作業が終了したことになる。

V 刊行物

平成28年度の事業報告を中心とした『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報32』を刊行した(PL.15)。本書には、平成28年度桜ヶ丘団地医療ガスボンベ庫建設に伴う発掘調査(2016-1)の発掘調査報告や立会調査報告、その他事業について掲載している。

VI 遺物保管

遺物保管場所確認作業としては、11月に学内15ヶ所の遺物収蔵状況確認を行った。また、工学部実験工場と理工学総合研究棟および共同獣医学部研究棟Aに保管してある木製品保存作業を9月11～15日に行った。

VII その他

その他の事業として、学外の調査支援活動と普及啓発活動があげられる。

学外への調査支援活動としては、熊本大学構内での熊本震災復旧事業増加による熊本大学からの支援要請があり、平成29年11月から12月に熊本大学埋蔵文化財調査センターへ本センター新里貴之助教を派遣したものである。

その他の支援としては、宮崎県都城市教育委員会や鹿児島県教育委員会より地中レーダー探査実施の依頼があり、実施した。地中レーダー探査は、発掘調査などの掘削調査無しに地下の遺構の存在を推定できる場合があり、考古学の分野でも最近盛んに取り入れられている調査方法である。南九州の文化財関係機関で探査を実施できるのは本センターのみで、かつ南九州には地中レーダー探査に向く地下式横穴墓等の遺構が多く存在してお

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報

32

平成28(2016)年度事業報告

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

平成30(2018)年3月

PL.15 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報32

り、その活用が期待されている。

普及啓発活動として、9月24日に公開講座を実施した。今回は山形県埋蔵文化財センターの大場正善氏を講師として招き、「石から探る旧石器時代の日常生活」と題して石器製作実演も含めご講演いただいた。講師が日本では数少ない打製石器製作技術者という事もあり、一般市民の他、考古学関係者も含め、約50名の参加があった。

本学出土遺物の資料貸出依頼も1件あった。依頼は、11月に実施された本学法文学部による「大学生による小学校出前授業」で使用する土器など出土品の貸出である。出前授業が教育学部附属小学校ということもあり、教育学部や附属小中学校からの出土品を中心に貸し出しを行った。

平成 29 年度 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 公開講座

石から探る旧石器時代の日常生活
—動作連鎖の概念でみる、実験的手法を応用した
新しい石器研究の方法—

講師：大場 正善氏
(公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター)

日時：平成 29 年 9 月 24 日 (日) 14:00~16:00
(14:00~14:30 講座 14:45~16:00 石割り実演)

場所：共通教育棟 2号館 213号室 定員 40名

お申し込み先：
鹿児島大学埋蔵文化財調査センター
<https://www.kagoshima-u.ac.jp/maibun/>
TEL 099-285-7270

入場無料
どなたでもお気軽にご参加ください!



Fig. 11 公開講座開催の案内



PL. 16 公開講座の様子

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則

平成 16 年 4 月 1 日

規則第 32 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鹿児島大学埋蔵文化財調査センター規則(平成 16 年規則第 103 号)第 8 条の規定に基づき、鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会(以下「委員会」という。)に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長(以下「センター長」という。)

(2) 各学部、大学院理工学研究科及び大学院医歯学総合研究科の教授、准教授又は講師のうちから選出された者
各 1 名

2 前項第 2 号の委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

(1) 調査実施計画に関すること。

(2) 埋蔵文化財調査センターの予算に関すること。

(3) その他埋蔵文化財の業務に関すること。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、第 2 条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第 5 条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第 7 条 委員会に関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規則の施行前に委員となった助教授は、その任期の満了の日まで引き続き委員とする。

附 則

この規則は、平成 19 年 11 月 28 日から施行し、平成 19 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 20 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター規則

平成 16 年 4 月 1 日

規則第 103 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鹿児島大学学則(平成 16 年規則第 86 号)第 7 条第 2 項の規定に基づき、鹿児島大学埋蔵文化財調査センター(以下「センター」という。)に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 センターは、鹿児島大学(以下「本学」という。)の埋蔵文化財の調査に関する業務を行い、本学内に存在する埋蔵文化財の保護対策を講ずることを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターは、次の業務を行う。

- (1) 調査実施計画の立案
- (2) 発掘調査、分布調査及び確認調査
- (3) 調査報告書の作成
- (4) その他必要な事項

(職員)

第 4 条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 主任
- (3) その他必要な職員

(センター長)

第 5 条 センター長は、本学の専任の教授のうちから、副学長(財務担当)の推薦により、学長が選考する。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

4 センター長に欠員を生じた場合の補欠のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(主任等)

第 6 条 主任は、センターの職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を委員会が推薦し、学長が選考する。

2 主任は、センター長の命を受けてセンターの業務を処理する。

3 職員は、センターの業務に従事する。

(事務)

第 7 条 センターに関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則の施行後、最初の室長は学長が指名した者をこの規則により選考したものとみなす。

附 則

この規則は、平成 22 年 1 月 29 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則の施行後、最初のセンター長は学長が指名した者をこの規則により選考したものとみなす。

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会（平成 29 年 4 月 1 日現在）

委員長 中村直子（埋蔵文化財調査センター長）

委員 渡辺芳郎（法文学部）

今由佳里（教育学部）

秦 重史（理工学研究科（理学系））

三隅浩二（理工学研究科（工学系））

田松裕一（石額総合研究科）

大渡昭彦（医学部）

峯崎良人（歯学部）

曾根晃一（農学部）

畑井 仁（共同獣医学部）

水産学部（西 隆昭）

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター（平成 29 年 4 月 1 日現在）

センター長 教授 中村直子

教員 助教 新里貴之

特任助教 寒川朋枝

技術補佐員 相良暁子

篠原美智子

吉村ゆう子（平成 29 年 5 月 1 日より）

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報

33

2019年3月

編集 中村直子・新里貴之・寒川朋枝

発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

〒 890-8580 鹿児島市郡元1丁目21-24

Kagoshima University

Research Center for Archaeology

Report Vol.33

CONTENTS

Chapter

1	Report of archaeological research in fiscal year 2017·····	1
2	Report of rescue surveys 2017·····	8
3	Report of survey in the Korimoto Campus (C・D-3) ·····	13
4～7	Report of other jobs ·····	16

Published by
Kagoshima University Research Center for Archaeology
2019